

雷

たなか踏基



昼間から
雨戸閉めさす
はたた神

遠雷に
息づく床の
青磁壺

雷匂う
耳輪外して
閨の床

剃毛の
うなじ冷たく
雷光る

雷の夜に
掌で挟みし
青い髭

雷一過
蠟燭ともし
哭く女

裸婦像の
竦みて残す
雷のあと

落雷に
千切れる雲の
斑かな



ラテン靴
履くフロアに
雷光る

雷鳴に
巫山(ふさん)の夢も
ままならず

いかずちも
落ちて一途に
海の果て

ヌギキヲを
塗り遠雷を
聴く素面

愛咬や
昂まる潮に
雷太鼓

雷遠し
弛緩の後の
雨滴(あめしだり)



鳴神の
雲居に侍る
女体かな



惚れながら
鼓を鳴らす
はたた神

雷光り
雲雨(うんう)の情を
空ろにす

大雷は
天地まぐわふ
兆しとも

鳴神を
惑わす雲の
絶間姫(たえまひめ)

巫女祈る
雷を促す
緋の袴